

講義名	教養特講（国際法入門）/国際法			授業形態	
担当教員	則武 立樹	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
紛争や飢饉、貧困、気候変動、ジェンダー格差、富の不均衡など、現代国際社会はさまざまな問題を抱えている。こうした諸問題に国際社会が一丸となって取り組むべく、2015年に国連で「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」を採択し、「誰一人取り残さない(No one will be left behind)」世界の創造を目指して、2030年までに達成すべき17の目標を定めた。このSDGsという取り組みの根幹には「人権尊重」という理念が存在しており、すべての国家とその国民の「行動基準」となるよう期待されている。そして、この「人権」の実現、保護/促進する手段として有効なものこそが、本講義が中心に講義する「国際法」と呼ばれるツールなのである。そこで、本講義は現代国際社会が抱える具体的な事例を取り上げ、国際法が果たす役割とその限界について知ることを第一の目的とする。また併せて、学生自身が国際社会の一員として生きていくために、人権という概念を理解し、尊重するための必要な知識を身に付けることを目的とする。

到達目標
学生が国際社会で生じる諸問題について、その問題点、原因、現在講じられている国際社会の取り組み等、その問題の概要を新聞記事やニュース等から読み解くことができるようになる。
学生が同問題の解決について、論理的に思考し、自らの言葉で説明できるようになる。

提出課題
授業時に複数回コメントカードの提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
次回授業内に講評を行う。

評価の基準
・平常点（授業中の問答、コメントカードの提出状況およびその内容）（30%）
・到達度の確認（授業内試験）（70%）
上記の評価項目を総合的に判断して最終的な成績を算出する。

履修にあたっての注意・助言他
・本科目では、受講生が法学初学者であることを念頭に、抽象的で難解だと思われる「法」の語を出来る限り詳しく解説し、また、国際社会で実際に生じている具体的な問題を取り上げることで、受講生の皆さんに「国際法」というものをより身近に感じながら学んでもらう予定である。わからない部分がある場合にはそのまませず、積極的に講師に質問してほしい。
・授業中の私語、スマートフォン及びパソコンなどの電子機器の操作等、授業と関係のない行動は認められない。悪質である場合には退室を命じられるほか、減点の可能性もあるので注意すること。

教科書
.使用しない.

参考図書
.なし.

その他

- 授業計画**
- 1.オリエンテーション 人権とは何か？
 2. 国際社会の仕組みと法
 3. 「女性」を巡る人権問題 - 「文化」と「人権」の相克（女性器切除/名誉殺人）
 4. 「女性」を巡る人権問題 - 戦時性暴力（従軍慰安婦/南京大虐殺/性暴力）
 5. 「LGBTQ+」を巡る人権問題 - 同性愛（同性間性行為の犯罪/同性愛者の家族形成権）
 6. 「LGBTQ+」を巡る人権問題 - 性別違和（性別違和者の性別適合手術の可否/戸籍上の性別訂正/子の出生性）
 7. 「障害」のある人」を巡る人権問題 - 皇位継承（オーストリアにおける皇室死プログラム/七五輪種学校事件）
 8. 「子ども」を巡る人権問題 - 人身売買と児童労働から見る「ビジネスと人権」のあり方（企業の社会的責任：CSR /英国現代奴隷法2015）
 9. 「難民」を巡る人権問題 - シリア難民/ロヒンギャ難民から見る国際機構の役割と限界
 10. 「部落出身者」を巡る人権問題 - 就職/結婚差別とその解決策としてのアフターメディアアクションの効用
 11. 「絶対的貧困線」を巡る人権問題 - 成功事例としての「グラミン銀行」の取り組みから考える
 12. 「在日朝鮮人/韓国入」を巡る人権問題 - 表現の自由とヘイトスピーチ規制
 13. 「犯罪加害者」を巡る人権問題 - 死刑制度に対する批判的意見
 14. 「少数民族」を巡る人権問題 - アフリソニー/アイヌが直面する「文化の盗用(Cultural Appropriation)」
 15. 到達度の確認とまとめ（授業内試験）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
□	ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
◇	オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
△	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回40時間の授業外学習が求められる。まず予習として、毎回のテーマについて、インターネット等を用いてどのような問題が発生しているのかを調査しておくこと、そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。また、日常生活での心構えとして、国際関係に関する新聞記事やニュースに積極的に触れることも重要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この科目の修得を通じて、本学卒業生が共通して身に付けるべき力のうち、特に次のような力を養うことができる。
知識を知識に転換することができる。論理的思考力を持った人財
・ 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる（情報収集力）
・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
・ 現象や事実のなかに潜んでいる問題点やその課題を発見し、解決すべき課題を設定することができる（課題発見力）
・ さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる（構想力）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
コメントカードの活用により、一方的な講義形式ではなく、学生自身主体的に考えられるよう、双方向でのやり取りを行う。

実務経験の有無及び活用

備考